

オリンピックエリアのもう一つのおもてなし —東京都心部の公園—

電車の窓から見ても感ずることであるが、上空から見ると首都圏の地表は建物に覆われている。もちろん小規模な緑地が数多く点在しているのではあるが、まとまった規模の緑地となると、決して多くはない。衛星写真を眺めていると、2020年オリンピック・パラリンピック招致委員会のブローシャによる選手村から8kmのエリア（黄色の円内）には、その数少ない緑地が集中して存在していることに気づかされる。



衛星データ ©JAXA Distribution PASCO
「だいち」からみた東京湾周辺 2011年4月

赤破線の楕円は、北西側がヘリテッジゾーン、南東側が東京ベイゾーンである。北西側の赤破線で囲まれたヘリテッジゾーンには、皇居、赤坂御用地、明治神宮外苑、新宿御苑、代々木公園と衛星写真でも明瞭に見分けられる大規模な緑地が含まれており、そのいくつかはゲームの会場として予定されている。蒸し暑い夏の東京に集う人々に、緑地の森の風が自然からのさわやかなおもてなしと感じていただければ嬉しいことである。